

---

第2期教育振興基本計画策定に向けて  
～意見聴取票より～

---

目次

1	これまでの掛川市の教育の良い点	P 1
2	これまでの掛川市の教育の改善べき点	P 5
3	これからの掛川市の教育に望むこと	P11
4	その他意見	P22
5	参考資料（アンケート等）	P28

**意見聴取協力者**

- ①各園・学校の教職員（回収37人）
- ②各園・学校の保護者（回収31人）
- ③教育関係団体（回収40人）
- ＜社会教育委員・図書館協議会委員＞
- ④かけがわ教育の日協力団体（回収16人）

**回収計 124人**

---

## 第2期教育振興基本計画策定に向けて

～意見聴取票より～

---

### これまでの掛川市の教育の良い点

#### 1 教育振興基本計画

##### (1) 方向性

- ・幼保小中→社会に出てからのつながり（連携）と先を見通した教育を市全体で目指しているところ。（教員）
- ・読書量や防災訓練の参加率等について現状値・目標値が示されており、今後めざす姿が明確になっていること。（教員）
- ・「夢実現に向かう、心豊かで凜とした市民」の育成の「凜」という言葉がとても良いと思う。人としてぶれない、まっすぐに伸びていくことを目標としているところが良い。（教員）

##### (2) 計画性

- ・現代的な社会変化に即応している点。（教育関係団体）
- ・課題を明確にし、中長期的で具体的な対策を立ててそれを実行しているところ。（保護者）
- ・時代に合った内容、そして掛川市の現状を把握し、未来を見据えた教育を考え、様々なプロジェクトが実行されているのが素晴らしいと思う。（教員）
- ・掛川市の教育のねらいが明確で、非常に理解しやすいものになっている。育てたい力もわかりやすい。（教員）

##### (3) 表示

- ・掛川市が考える人づくり構想・教育方針が、分かりやすく示されていてよい。（教員）
- ・学校だけでなく、家庭や地域、社会が一体となって子どもを育てようとする思いが感じられるものになっている。（教員）

##### (4) 人材育成

- ・報徳の精神を基盤とした、真面目で実直な教育が実践されている。（教員）

#### 2 中学校区学園化構想

##### (1) 一貫性

- ・中学校区学園化構想のおかげで、保幼小中で連携して統一した指導ができています。子ども達が安心して進学できる。（教員）
- ・学園化構想によって、幼稚園から中学校までが連携し子どもたちを長期的に見ていただけることはとてもありがたいと思う。（保護者）
- ・中学校区学園化構想では、9年間を見通した長期間で、質の高い教育で地域と共に成長していくことは、豊かな心や体の育成にとっても効果的で、良い取組だと思う。

(保護者)

- ・中学校区学園化構想は違う年代とコミュニケーションがとれて、良い刺激になった。

(地域団体)

- ・中学校区学園化構想のもと、学校、家庭、地域が一体となって、子どもの発達段階に応じて15年間を見通した教育を行っている。(教員)

#### (2) 園・学校の連携強化

- ・中学校区学園化構想により、幼保こ小中が連携を図り、情報交換や職員の資質向上につながり、子どもや保育、教育を理解できる点。(教員)

#### (3) 地域とのつながり

- ・中学校区学園化構想を生かした教育に取り組んでいること。核家族が増えている中、このような取組があり、地域とのつながりに結びつくことができる。(保護者)
- ・地域の方がお手伝いをしていただき、園・学校行事の中でも、田んぼ遊び、お茶、餅米づくり他、なかなかできない事をやらせていただいている。(保護者)
- ・園・学校だけでなく地区を巻き込んで各地区の特徴を生かして支援・活動していく構想は素晴らしいと思う。(教員)
- ・中学校区学園化構想のもと、地域コーディネーターを橋渡しとした地域に開かれた学校が実現しつつある。地域の財と子どもが結びつくことで、地域に「誇り」を持った人づくりができています。(教員)
- ・地元住民との連携が密であり、地域で育てる子どもという意識が非常に高い。(地域団体)
- ・地域活動の中で学校におけるボランティア活動意識が以上に高く、子どもたちの健全育成に役立っていると思う。(地域団体)

#### (4) 継続性

- ・中学校区学園化構想は市民総ぐるみで子どもを育てる素晴らしい取組である。今後人生経験の豊富な多くの人材が退職により増えていくことから、これらの人材を活用できる場を提供することは、生涯にわたって学び続け生きがいのある充実した人生を送ることができる生涯学習社会の実現につながる。(保護者)

### 3 かけがわお茶の間宣言

- ・かけがわお茶の間宣言は、掛川らしさを前面に出した内容で、他市との差別化もでき、家庭環境の再構築にもつながると感じる。(保護者)

### 4 幼児教育

#### (1) 方向性

- ・幼児教育では、園児の個性を伸ばす教育がされている。(教育関係団体)
- ・掛川市の幼児教育に対しての理念や構想は、未来を担う子どもをどのように育てていくのか、よく考えられていると思う。(教員)

#### (2) 幼児教育士の専門性を高めるための研修【2-(2)】

- ・掛川市の乳幼児教育を公私立などの形態を越えての『かけがわ乳幼児教育未来学会』の設立は、参加してみると視野が広がり、一緒に研修できている。(教員)

(3) 子育て支援体制の充実【4-(1)】

- ・幼稚園で預かり保育が始まり、子どもを預けたい母親にとってはとても助かっている。(保護者)

## 5 学校教育

(1) 魅力ある授業の展開【1-(1)】

- ・「確かな学力」の向上を目指し、魅力ある授業を展開しようとしている点が良いと思う。特に、小中一貫教育研究が行われ、小中の教員が共に学びあっているところが良い点だと思う。(教員)
- ・全国学力・学習状況調査の結果が国や県の結果と比べ、概ね良好な状況である。(教員)

(2) 特別支援教育の充実【1-(3)】

ア 就学支援

- ・特別支援教育の充実に力を入れることで、各園、学校で早い時期から就学支援が進められるようになったと思う。(教員)

イ 支援体制

- ・特別支援の対象となる児童が増え、通常学級の中にも当たり前のように数人いる状況である。学校サポーターの派遣、巡回相談など外部からの支援体制の充実がたい。(教員)

(3) 小学校外国語活動の充実【1-(4)】

- ・時代のニーズに合わせ、外国語活動等の取組は小学生の頃から身近なものにしていくことはとても良いと思う。(保護者)

(4) 豊かな心を育む読書活動の推進【2-(2)】

ア 学校司書

- ・学校司書が配置されたことで、図書室が整備されたり、蔵書が充実したりしたことで、読書好きな児童が増えた。(教員)
- ・学校司書が各校に配置され、図書環境の整備や、ほんの効果的な活用・利用の手助けとなっている。(教員)

イ 環境整備

- ・読書量の多さが素晴らしい。(教員)
- ・読書活動の推進が図られ図書館資料等充実している。(教員)

(5) 地域の自然・歴史・文化などを活かした体験学習【3-(2)】

ア 地域教材

- ・掛川の特産を生かした学習（お茶など）では、地域の特徴を学び、掛川のことを知り好きになることにつながるので続けてほしい。(保護者)
- ・お茶に関する体験や、その他の農業体験など、体験活動が充実している点。(教員)

イ かけがわ道德

- ・「かけがわ道德」等、道德教育が充実しており、子どもたちに金次郎さんの教えや報徳の精神が根付き始めていることを感る。人としての生き方を考えさせる教育が体系的に進められていると思う。(教員)

## (6) 社会の変化に対応する学校【4-(1)】

### ア 情報化推進

- ・学校教育では、PC等を用いた試みや、モデル校を作り、実施されているところ。  
(保護者)
- ・ICT教育やプログラミング教育に早くから力を入れ、成果を積み上げてきている。  
(教員)

## (7) 「頼もしい先生」を育成

- ・経験豊かな先生（まごころ先生）に若手教員がじっくり指導いただける場があり、力を付けている。(教員)

## (8) 生徒指導の充実【4-(3)】

- ・小学校では定期的にスクールカウンセラーの相談を受け入れる日があり、母親は相談しやすいと思う。(保護者)

## (9) 老朽校舎・屋内運動場の改築、改良【5-(1)】

- ・子どもたちが安心して通える学校になったことはとても親として嬉しい。(保護者)

## 6 図書館

### (1) サービスの充実

- ・図書館はたくさんの本があり、施設も綺麗。特設で入口近くで時々開催されるイベントも良いと思う。図書館の本を児童館で見れるのも良いと思う。(保護者)

### (2) 移動図書館

- ・移動図書館車の各学校への巡回、こんにちは絵本事業、新1年生へ図書館カード作成等、図書館の利用を進める良い手立てだと思う。(教育関係団体)
- ・市の人口規模の割には、BM車が2台運行する等、他市よりは恵まれている点がある。  
(教育関係団体)

## 7 文化・スポーツ

### (1) 文化の継承

- ・市内にある文化財、歴史的遺産を多くの市民の学習素材として提供することは、生涯学習都市にとって、素晴らしい。(教員)
- ・郷土の先人の培った地域の歴史、文化、伝統、知恵を受け継ぎ、郷土に対する誇りや愛着を育むことはとてもいいことだと思う。(保護者)

### (2) スポーツの振興

- ・市民が気軽に利用できるスポーツ施設、公園、支援センターなどが整っている。  
(保護者)

## 8 教員

- ・先生方は真面目で一生懸命だと思う。(教育関係団体)
- ・限られた時間の中で熱心な先生方の御指導のもと、学力向上、心身育成、地域活動などとても充実した内容に保護者として満足している。(保護者)

## 9 子ども

- ・小学校でボランティアに関わっているが、生徒は皆挨拶ができてよい子ばかりと感じる。取り組まれてきた成果だと思う。(教育関係団体)
- ・住んでいる地域の子どもたちのあいさつは素晴らしいと思う。(保護者)
- ・「確かな学力」向上への各校の取り組みや読書活動の推進などから、児童が落ち着いた学校生活ができてきている。
- ・様々な施設、事業が効果的に展開され、学校教育の充実につながっていると考えられる。(教員)

## これまでの掛川市の教育の改善すべき点

### 1 教育振興基本計画

- ・掛川市の教育（幼児教育）が保護者、市民にわかりやすく伝わるイラスト入りリーフレットなどがあるとよいと思う。
- ・長所が短所になっているかもしれない。これぞ掛川と言えるものに重点的に取り組みたい。(教員)

### 2 中学校区学園化構想

#### (1) 園・学校の連携強化

- ・学園化で情報交換はできるが、実際の保育や教育に関わること(例えばアプローチカリキュラム)まではできていない。(教員)
- ・幼児教育士と小中学校教員が互いの教育内容や指導方法の違い、連続性を相互理解する機会が少ない。(教員)
- ・学園化構想の中で、保幼小中それぞれの園・学校の資質向上を図ろうとしていることは理解できるし、形になって表れていると思うが、一人の子どもの12年間を通して育てていこうとする市政が今一步足りないのではないかと思う。地域の方から教育活動を評価していただくと同時に、学園内でもそれぞれを評価し、アドバイスをしてみたらどうだろうか。(教員)
- ・学園化を進めるにあたり、学校間交流に必要な手段を保障してほしい。(教員)

#### (2) 地域とのつながり

- ・学校だけでなく家庭、地域が土台となり根深い取り組みにする。(教員)
- ・子どもたちと地域の人とのつながり、子ども同士の縦のつながりがもっと強くなれば良いと思う。(保護者)
- ・地域の人が学校等に入るだけでなく、子どもたちが地域に出て、地域のことを地域の人から学ぶ活動をしてほしい。放課後、学童や塾に通う子が多く、地域のことを知る機会や、地域の人に会うこともないように思う。(教育関係団体)
- ・地域と学校が連携を図っていく際の打合せ時間等、学校職員の負担が増えることがないようにしたい。(教員)

- ・市の規模が大きいため、教育に対する地域や家庭の取組の、学園（中学校区）による差異が見られる。（教員）
- ・学園化構想については、北部と南部では方法に違いがあると思う。同じような方法でできると良い。（教員）
- ・行政主導から市民との協働にシフトしているが、地域毎に特色が出る一方で、活発がない地域では、他地域との差が生じてしまうことについて、市全体での考えを改めるべき。市民に任せすぎると、持続性が担保されないことについて、コントロールできるのか。（保護者）
- ・登下校の時間に合わせて犬の散歩、庭の手入れなど子どもたちは守られている安心感がある。大人は地域全体でやるべきことを意識する。（保護者）

### (3) 継続性

- ・構想は分かるが、思い切った具体策が見えない。計画策定と予算配分が大切。やらせっぱなしでなく、必ず成果が見える形で示すよう厳しさも必要。（教育関係団体）
- ・子ども育成支援協議会の予算的な支援が弱く、無料の奉仕に頼る完全ボランティア運営では、今後先細りが懸念される。後継者も育たない。（教員）
- ・学園化構想の考えは大変良く、共感が持てるが、地域によっては役員が単年度交替となっていて継続生が課題。（地域団体）

### (4) 小中一貫教育

- ・今後、学園化の推進を行っていく中で、小中一貫教育の取組を市としてどう進めていくのか、より具体的なものを示すことが急務である。（教員）

### (5) その他

- ・学園化構想について、地域住民への認知度が低い。（教育関係団体）
- ・構想そのものは素晴らしいが、現実どこまで浸透しているのか。外国人支援や特別教育の支援など、担い手が少ないため、十分な支援体制ができていないように思う。担い手の確保が必要かと思う。（教員）

## 3 教育の日

- ・掛川教育の日は、前年度踏襲で同じことが繰り返されている。市民を巻き込む形で工夫したい。（教員）
- ・全体的な見直しが必要。毎年毎に目標を明確にする必要あり。（教育関係団体）

## 4 幼児教育

### (1) 一人一人の成長を促す教育課程と指導計画の充実【1-(1)】

- ・中幼稚園は少人数園であるが、多人数園と同等の掛川市の教育の質ができているのか分からない。（保護者）

### (2) 「掛川市・子ども子育て支援事業計画」の推進【5-(1)】

- ・大東、大須賀区域認定こども園化が推進されているが、再編により全ての希望者の要望に対応できるように運営をお願いしたい。（保護者）
- ・幼稚園教育を公立幼稚園では教育要領に基づき進めてきたことが、民営化されるこ

とで、どうなっていくかが心配。組織ぐるみの具体的な研修体制づくりが必要なのではないかと思う。(教員)

- ・認定こども園になったことにより、保育園部と幼稚園部と一緒に生活するため、早く帰る子どもたちや長期休暇などとても寂しい思いをしたようである。フォローができていないか検討いただきたい。(地域団体)

## 5 学校教育

### (1) 魅力ある授業の展開【1-(1)】

- ・学園化されて、学力、感性が高くなることはいいことだと思ったが、今の現状だと、学校の授業だけでは理解が十分できず、塾に頼る子どもが多いと思う。親も塾の先生と密に連絡をとっているという方もたくさんいる。それでは「掛川市」としての教育というのが薄いような気がする。(保護者)
- ・同じ学年なのに、小学校毎やっていることに違いがある。例：小5稲作、田植えからかかしづくり。収穫販売までやっている学校もあれば、一切稲作に関わらない学校もある。(保護者)
- ・外国語など新しいことを取り入れるということは、今まで時間をかけて国語や算数等の基礎を教える時間が減ってしまうのではないか。理解できない子が増え、外国語も小学生の内から苦手意識が生まれてしまうのではないかといった心配がある。分からない子どもに合わせた授業展開を望む。(保護者)
- ・学力向上、魅力ある学校づくりなどに向けて、時代のニーズに応じたハード面での環境整備にかかる予算が、他市と比較して進みが遅く、金額も低いと感じる。改革を進めるための戦略として、本市の特色には大胆に予算をつける方がよいと思う。(教員)
- ・全国学力・学習状況調査等、学力向上で成果を上げているが、その要因は教員の頑張りによるところが強く、予算的な裏付けがない、財政措置がない中で進めているので限界がある。(教員)

### (2) 特別支援教育の充実

- ・特別支援教育コーディネーターの後継者を育成していくべき。(教員)

### (3) 道徳教育・人権教育の充実【2-(1)】

- ・学力向上も大切だと思うが、心の豊かさも大切にして、いじめのない学校になってほしい。(教育関係団体)
- ・道徳教育は学校教育だけでなく、幼児教育から説いていくべき。(保護者)

### (4) 豊かな心を育む読書教育

- ・小学校よりも中学校の方が読書をする機会が減っている感じる。小学校に移動図書館があるように、中学校にもレベルを上げた移動図書館があって良いと思う。(保護者)

### (5) 健康教育と体力・たくましさの育成【2-(3)】

#### ア 部活動

- ・部活動の在り方について、学校・保護者との共通理解を図ること。これは学校による説明では不可能。市として具体的なスタンスを示していただきたい。(教員)



- ・部活動等について、教育界の変化の動向に対応していくこと（教員）
- イ 市内陸上競技大会（キラリ！ふれ合いコンサート含む）
- ・小学校陸上競技大会の開催について、小規模校は選手枠に人数が達せず、選手選出が難しい状況。大規模校は、選手枠が少なく、教育的配慮が難しい状況。運動があまり得意でない子への負担。指導の難しさ。小学校教員が陸上競技の専門的指導をするのは難しい。（教員）
  - ・陸上大会や「キラリ！ふれ合いコンサート」等の行事は学校規模により児童や保護者の負担感が大きく変わると思う。また、新学習指導要領に関わる時数等も考えると見直す時期にきていると思う。（教員）
- (6) 地域の自然・歴史・文化などを生かした体験学習【3-(2)】
- ・郷土の歴史や文化を愛する体験活動として、市内の史跡や記念館などをもっと利用したいが、移動手段がなかったり、展示内容が難しかったりして、利用のしにくさがある。（教員）
- (7) キャリア教育の推進【3-(3)】
- ・キャリア教育の推進では、学校の特色や地域の実情を踏まえたものを展開させたい。（教員）
- (8) 社会の変化に対応する学校【4-(1)】
- ア 研修体制
- ・社会の変化に対応するために、各学校のICT環境の整備や要支援児童・生徒へ対応できる頼もしい先生を育成できる研修の充実。（教員）
  - ・ICT教育のための設備を整えてくださっているが、十分活用できていない。教職員がICTを活用できるよう研修を充実していきたい。（教員）
- イ 機器整備
- ・菊川市は校内LANが設置され、デジタル教科書も導入され、タブレットも生徒個人が使える状況にある。財源の問題もあるが、学校間格差が生じないよう全校に同時に整備する必要がある。（教員）
  - ・ICTに関して、学校間に格差がありすぎる。（教員）
  - ・授業などで、未だにインターネットが自由に使用しづらい。ICT環境が学校間で未だに差がある。（教員）
  - ・ICT活用に取り組んでいるが、充実していると思えない。（教員）
  - ・プログラミング教育の推進とはいえ、校内のネット環境が改善されないことには推し進めることが難しい。（教員）
  - ・小学校数を減らすことも含めて、学校施設の充実（ICTなど）により、力とお金を注げると良い。（教員）
- ウ 外国人
- ・外国人児童生徒が様々な学校に在籍するようになっているが、十分な支援ができていないと言えないので、さらなる支援を望む。（教員）
- (9) 老朽校舎・屋内運動場の改築・改良
- ・校舎や校舎回りの老朽化が目立つ。フェンスがゆがんでいる箇所や大きな穴が開いている。補修をお願いしているが、なかなか実現できない。（教員）

- ・学校の建物が老朽化しており、十分な学習環境と言えない。(教員)
- ・学校施設の老朽化に伴う建て替え等を考えると、行政としての判断は、財政面から考えてもとても大きな問題である。(教員)
- ・プールや体育館など、施設の老朽化を心配している。(地域団体)

#### (10) 学校給食

- ・学校給食の充実 (教員)

## 6 社会教育

### (1) 家庭教育に係る講座・教室などの学習機会の充実【2-(1)】

- ・「家庭教育力の向上」では、「親子で考えるSNS利用」等の文言を加え、SNSトラブルを未然に防ぐ動きを示したい。(教員)
- ・掛川家庭教育「和・学・愛・楽」の施策を知り、とてもいいと感じた。教育現場においても、懇談会や入学説明会において、その力を積極的に活用したいと考える。(教員)
- ・地域による差がある。都市部と地方などで、施設や学習拠点、講座などに差がある。学習機会や体験機会など、もっと幅広い時間枠や場所を設け、多くの人に活用、利用できるようにしてほしい。(保護者)

### (2) 相談・支援体制の充実とネットワークづくり【2-(2)】

- ・家庭教育力に差を感じられるので、親学講座の活用など、どの家庭にも教育力が向上できるような機会を更に増やしていきたい。(教員)

### (3) 文化財の調査・保護・保存の推進【4-(3)】

- ・多くの重要文化財を所有していると思う。ぜひ、一般にも数多く公開してほしい。(教員)
- ・各地域に残る歴史的遺産や文化財に光を当てて整備することに配慮しないと時間が進めば進むほど失われていく。(教員)
- ・掛川市の文化財や歴史に、興味や関心や楽しさを感じさせない。民俗資料館などの来場者数も、存在意義を問われかねないほど少なすぎる。観光関係者とも協議して魅せ方を工夫した方が良い。(地域団体)

## 7 図書館

### (1) サービスの充実【1-(3)】

- ・小学校よりも中学校の方が読書をする機会が減っている感じする。小学校に移動図書館があるように、中学校にもレベルを上げた移動図書館があって良いと思う。(保護者)
- ・図書館の駐車場が狭く、数も少ないためもっと増やしてほしい。(保護者)
- ・月曜日が休館日となっているが児童館も月曜日が休館日のため、雨の日に子どもを連れて行く場がない。どちらかずらしてもらえると、利用しやすいのではないか。(保護者)

## 8 広報

- ・市としてとても良い取組を多数行っているが、それが子どもたち（市民）になかなか伝わっていない点。（保護者）
- ・色々な教育化企画がされている中、十分なPRがされていないように思う。中学校区学園化構想や協働による人づくり、まちづくり等、正直私自身知らなかった。（保護者）
- ・掛川市は近隣の市と比べても質の高い教育内容であるが、せっかく素晴らしい取組を行っていても、直接感駅のある人には理解されている反面、あまり周知されていないのが現状であり残念である。今後より多くの方に浸透していくためには、まず身近でもっと関わられる様にしていくなど、教育内容や活動を周知徹底させる事も必要だと思う。（保護者）
- ・今後に向けて更により多くの市民に「総ぐるみの人づくり」という思いが浸透していった欲しいと思う。掛川教育について様々な場で情報を発信し、より多くの市民に知ってもらうことが大切なのではないかと思う。（教員）
- ・子どもたち自身から、家庭から自発的にのびのびと社会体験に参加できるよう、おおらかな、且つ行き届いた情報発信が望まれる。（保護者）
- ・教育行政の充実が、魅力ある地域の重要な要素なのだから、外部へのアピールをしたい。（教員）

## 9 子ども

- ・子どもの貧困は経済的貧困と精神的貧困に分けて議論した方が良いと思う。このことについては、精神的貧困対策について議論すべきと思う。（教育関係団体）
- ・待機児童、学童に入れない子どものサポート。（保護者）
- ・下校時なるべく複数で下校できるようにある程度の学年で時間を合わせていただきたい。（保護者）

## 10 教職員

- ・地域全体で地域の力を借りながら子どもたちの育ちを見守るベースができていることは、素晴らしいと思うが、現場の教職員の人数が少しでも増えているとより充実するのではと思う。（保護者）
- ・地域や家庭の学校教育に対する期待が大きく、さらに新たな教育も始まる中において、市の物的人的整備が追いつかず、学校現場の教職員の負担がますます増大している点。（教員）
- ・市の事業を学校を通す場合が多く、教員の本来の学校教育以外の取組が多くなってしまっている。（教員）

## 11 その他

### (1) 予算

- ・教育予算が他市と比べて低い。また、どんどん減っている。物的整備だけでなく、人的整備を進めてほしい。（教員）

### (2) P T A組織

- ・園児・児童・生徒の少ない地域では、幼稚園から中学校まで、人数が変わらず、父兄のPTA活動に負担が多いので、市P連の役員選考に考慮してもらいたい。(保護者)
- (3) 環境
- ・掛川市南部に子どもたちが元気に遊べるような施設(公園や児童館など)が欲しい。避難場所になるような場所ならより良いと思う。(保護者)
  - ・入りたい保育園に入れなかったり、無認可保育園に預けていると聞いたりしたので、改善できれば良いと思う。(保護者)
- (4) 人的配置
- ・たくさんの魅力的な政策があることがわかり、活用したいと考えた時に人的、時間的な余裕が無く、十分に活用し切れないことを残念に感じる。(教員)
  - ・数多くの「〇〇教育」があり、全て必要であることは分かるが、全てを実施するには人が足りない。(教員)
- (5) 園・学校の活動や行事
- ・活動が幼稚園も小学校も小規模になってきているように思う。(園活動、行事、遠足など)(保護者)

## これからの掛川市の教育に望むこと

### 1 教育振興基本計画

#### (1) 方向性

- ・掛川市の教育を魅力あるものにするためには、子育て世代が、子どもを安心して産み、育てることができる環境整備や制度設計、生涯にわたって郷土(掛川)に誇りと愛着をもてる市民の育成のための施策を強力に推進していただきたいと思う。  
(教員)
- ・掛川市は、中学校学園化構想、かけがわ教育の日、お茶の間宣言など、他市には無い特色ある取組を継続して行っている。それらを生かしつつ、さらに先進的で特色ある新たな教育が展開できる環境づくり(学校づくりも含む)を進めたい。そういう環境下で育ってきた優秀な人材が各地で活躍したり、特色ある教育を広報したりすることで、教育が充実している魅力ある掛川市の認識が高まり、人口も増え、掛川市の魅力も高まっていくと思う。(教員)
- ・今より少し先を見られる子どもの育成(夢をもつ)、夢を実現するために、自己の管理、目標管理ができるカリキュラムづくり、子どもを育成することが必要ではないか。(教員)
- ・3つの宝として取り組んでいる事業はとてもいいことであるが、具体的な取組として、しっかり各家庭、各個人に響くような事業を望む。例えば、お茶の間宣言をク

リアファイルを作って普及させたいことは分かるが、各家庭が家で話ができる環境作り、社会づくりという点から、企業を巻き込んで取り組むなどしてほしい。

(保護者)

- ・今後国の宝でもある子どもたちを、いかに邁進させていくかが大人の務めであると思うが、教育のゴールとしている”自立”は単に社会人になるということだけではなく、他人や環境のせいにせず、自分の課題は自分で解決できるように、困ったときに素直に自分の気持ちや考えを言える、そんな強くてたくましい人に育つような教育を推進していただきたいと思う。(保護者)
- ・子ども達が夢に向かって学んでいける教育、「学ぶことが楽しい」と感じる教育が必要だと感じている。(教員)
- ・次世代を担う子どもたちに心も体も強くたくましい人間になってもらえるような教育をお願いしたい。人の気持ちを考え、自分の意思を自信を持って言える子になってもらいたい。(保護者)
- ・様々な課題に対して、自ら考えたり、人と交流したりして、よりよい解決策を見出し、未来を切り拓き、たくましく生きていける人づくりが今後とも必要であると思う。(教員)

## (2) 計画性

- ・掛川市においては「人づくり構想かけがわ」をもとに、教育が体系的に、計画的に進められている実感が、教育現場にいてとても感じる。そして、積み上げてきたことが、子どもたちの姿に表れていることや教職員にその考え方が浸透してきていることなど、素晴らしいと感じる。(教員)
- ・今後も、子どもたちが希望を持ち、逞しく成長させていける様に、色々な施策を企画・実施していただきたいと思う。(保護者)
- ・様々な目標値が上げられているが、実現に向かうにはどのようにしたら良いか具体的なものが見えにくいと感じる。(教育関係団体)
- ・ここまでの取組を精査し、効果の薄い取組や役目を終えた活動を整理して、本当に重要なものに力を注げる、「引き算の改革」が今後、必要になってくると思う。(教員)
- ・教育施策の中身が多岐にわたっており、学校現場においても一つ一つに十分に手が回らず、教育効果が十分に得られず、教職員の負担の増大につながっているものもあるように感じる。施策の一つ一つを検討、整理した上で、今の掛川市の子どもたちに最も必要なものに重点化して取り組んでいくことで成果を確実にあげていくことが肝要かと考える。(教員)
- ・同じような内容の施策は統合したりしながら働きやすいような形にしていきたい。(教員)
- ・基本計画を見ると教育政策のみの縦割り行政しか読み取れないため、他部署との連携も視野に入れた方が現実的だと思う。(教員)

## 2 中学校区学園化構想

### (1) 園・学校の連携強化

- ・もっと学園内で交流を持つようにしたらどうか。(保護者)
- ・今後は更に保・幼・小・中の連携が必要になってくると思う。それぞれのつなぎ目が子ども達の成長に大きくかかわってくると考える。職員が多忙な中、互いを理解する話し合いや研修の工夫が必要だと考える。(教員)

## (2) 地域とのつながり

- ・学校教育の充実は言うまでもないが、既に学校現場でやれることには限界が来ている部分がある。「中学校区学園化構想」の取組を核として、地域ぐるみで子どもを育もうという気運をさらに高めていく必要があると思う。(教員)
- ・学園化構想については、「家庭や地域と連携した開かれた学校」に示されたとおりの方向に進んでおり、地域の皆さんに助けをもらうことで、教職員の負担軽減や質の高い教育の提供につながっている。(教員)
- ・今まで以上に地域と学校が一体し、安心して生活できると良い。(保護者)
- ・地区ごとの取組の格差が出始めているように感じる。今は土台ができたばかりだと思うので、地域全体に根付くように太い幹となる考えを推進して行ってほしい。(保護者)
- ・部局によって進められている「まちづくり協議会」と教育委員会が進める「子ども育成支援協議会」が連携できる組織づくりを進め、名実ともに「地域とともにある学校」となるよう、ボランティアに対する予算措置を確実に行いたい。場合によっては基金等を立ち上げ、地元企業等と連携した地域支援、学校支援ができる体制を整備したい。(教員)
- ・地域コーディネーターが一層活躍できる様な研修、仕組みづくりをお願いしたい。(教員)
- ・学園化構想を良い形での発展を図り、地域で育てていくという意識を再構築していくことが大切である。また、学園化構想の役員は単年度交替ではなく、長期的視野に立って子どもたちを育てていく活動を今以上に行う。

## (3) その他

- ・学園化構想の推進の構図の中に、家庭の働き手の参加できる姿が見えにくいと感じた。(保護者)
- ・学園化構想、さらに進んで小中一貫教育というビジョンは良いと思う。しかしながら形骸化している感はある。学校おこしは町おこしに通じると考える。地域・家庭・学校がさらに連携し、多くの人を巻き込んだ魅力ある学校づくりができないかと思う。(教員)
- ・中学校区学園化構想をいつまで構想しているのか。構想のための会議や講習に地域も振り回され、参加者に意欲や充実感が感じられない。(地域団体)

## 3 お茶の間宣言

- ・「かけがわお茶の間宣言」は、「家族が集い、語り、学び、伝え、育む…」といった、家族の絆や家族団らんの大切さを、わかりやすく、そして、印象強く、市民に向けて示していて、すばらしい取組であると思う。今後も、「お茶の間宣言」にあるように、人づくりの土台であり、出発点でもある、「家庭」への啓発を継続していた

だけるとありがたい。学校としても今後も努力を続けていきたい。(教員)

- ・平成30年から、かけがわお茶の間を続けてほしい(子どもも親も楽しめる)  
(保護者)

#### 4 かけがわ教育の日

- ・「かけがわ教育の日」等で取り組みを紹介していることはとても良いことだと思うが、実際には、よく知らない人がまだいるように思う。参加することに、ハードルの高さを感じる人がいるのかもしれない。今まで以上に、園・学校とまちが一体になって、子どもを育てていけたらよいと思う。(教員)

#### 5 幼児教育

##### (1) 一人一人の成長を促す教育課程と指導計画の充実【1-(1)】

- ・人間形成の土台の時期にある乳幼児教育の重要性をふまえて、乳幼児教育の充実を推進していただきたい。生活の中で様々なメディアがあり、かかわりも多くなっているが、特に乳幼児期や小学校低学年までは、人と人とのかかわりや自然との触れ合いの中でこそ得られる多くの実体験を大切にしながら、達成感や満足感、失敗や葛藤などから学び、自己発揮をしながら、自己調整力を身につけていく中で、自己肯定感がもてる子を育てていくことが大切だと思う。(教員)
- ・乳幼児教育が民間になっていくので、量だけでなく、質の向上ができる様にしてもらいたい。一生のうちで乳幼児教育に投資することにより、その後の社会も豊かになり、その子も幸せになることが分かってきたので、ぜひ乳幼児教育に力を入れてもらいたい。(教員)
- ・今の子どもたちが学力向上だけでなく、非認知能力を伸ばしていくことも大切にできる教育、その時々で育ちをしっかり押さえ、人として「生きる力」の基礎を育む乳幼児教育をさらに重要視し、小中学校との連続した教育を望む。(教員)
- ・10~20年後を見据えたとき、幼児期の質の高い教育が大切だといわれている。人格形成の基礎作りの時期である幼児教育の重要性を市民に伝えていく取り組みが必要だと思われる。人とのかかわりや意欲、忍耐力など、非認知能力を培うことが学校教育の学びを支える力になることを、講演会などで、ぜひ市民に伝えていただきたい。(教員)

##### (2) 子育て支援体制の充実【4-(1)】

- ・地域とのつながりを大事にし安心して子育てができる掛川市になってほしいと思う。子育て世代のサポートやそれ以前のサポートが充実すれば人口も増えていくのではないかと。(教員)

##### (3) 「掛川市子ども・子育て支援事業計画」の推進【5-(1)】

- ・こども園2号の場合、保護者が他地区の園を希望していない場合、地元の子ども園に通えるように配慮してほしい。(教育関係団体)

##### (3) その他

- ・保幼小中一貫教育を進めていく上でも、この少子化の時代において保育施設の充実を望む。待機児童数が県2位という掛川市では、幼児を持つ家庭では子育てに優し

い袋井市や菊川市に移ろうと考えている家庭が少なくないと聞いている。

(教育関係団体)

- ・公立私立に関係なく子どものために何をすべきなのか考え、手を取り合って進んでいけるとよいと思う。(教員)
- ・市の財政で幼児教育を充実させることが、小中での学力向上につながるのではないか。(教員)

## 6 学校教育

### (1) 魅力ある授業の展開【1-(1)】

- ・小学校の基礎がしっかりと身につかないと苦手意識につながってしまうと思う。足踏み状態になってしまったとしても、全員が理解のできる授業展開を望む。

(保護者)

- ・小学校においては、教科担任制による専門教育を実施してはいかがか。(保護者)
- ・外部講師の活用を積極的に行い、子どもたちにたくさんの体験や素晴らしい経験のできる授業を提供してもらいたい。(保護者)
- ・現在、城東・原野谷学園にて研究されている「小中一貫教育」は、最終的には市内全学年が統一実施するための「小中一貫カリキュラム」を研究しているのか、それとも各学園が独自のカリキュラムを創るための「作り方」を研究しているのか。前者ならば、今後は市教委主導で一貫カリキュラム作製委員会等を設置して施策を加速させる必要性を感じる。また、後者ならば、研究成果を踏まえて、各学園がカリキュラムを作成するゴール(年度)を示すと共に、公教育である以上、市民(保護者)にカリキュラムを選べる学校選択の裁量を同時に付与していく必要があるのではないか。(教員)
- ・かけがわ型スキルなどの提案がされているが、未来を生きる子供たちのための資質や能力の育成についての研究が現場では遅れている。行政の具体的な動きが必要かも知れない。(教員)

### (2) 特別支援教育の充実【1-(3)】

- ・学校には、個性豊かな児童、生徒がおり、一人一人にもっときめ細かい支援や指導ができるようなサポーターの増員、環境整備などを検討してほしい。(教員)
- ・通常学級にいても特別な支援を要する児童が、年々増えている傾向がある。是非、サポーターの人数を増やして欲しい。(教員)
- ・発達障害やいじめ防止などの支援の強化、悩んでいる家族、子どものサポートの充実。(保護者)
- ・特別支援を要する児童、対応に悩む保護者、教職員が増えている。人的な支援と共に、保護者への啓発等も進めていただけるとありがたい。(教員)

### (3) 小学校外国語活動の充実【1-(4)】

- ・外国語、特に英語を避けていくことは難しく、ぜひ、生の英語にふれる場面を増やしてほしい。(保護者)

### (4) 環境教育の充実【1-(5)】

- ・「エコネットチャレンジ」の取り組みや学校への太陽光パネル設置等、これまでも



環境教育の推進を行ってきている。掛川市には、環境資源ギャラリーや水質保全パビリオンなど、教育的にも優れた施設があること、ゴミの分別の細分化により全国的にもゴミ排出量が少ないこと等、環境教育を推進するための環境が整っている町だと思うので、更に「環境に優しい町」をPRしていけるとよいと感じている。

(教員)

(5) 道徳教育・人権教育の充実【2-(1)】

- ・掛川っ子としての利点を活かし、歴史・文化・報徳・生涯学習等を学び、郷土を誇りに感じると共に、郷土を愛し、時代でも胸を張っていけるように、かけがわ道徳にもより力を注いでいただきたい。(保護者)
- ・いじめに屈することの無い心の強い子、自分の意思をしっかりと持てる、人の痛みが分かる子を育ててほしい。(保護者)
- ・人間教育(道徳教育・人権教育)の推進

(6) 健康教育と体力・たくましさの育成【2-(3)】

- ・小学校陸上大会がなくなってしまうかもしれないと聞きいた。他校とのふれ合いもでき体を動かすことができるのでこれからも続けてほしい。(保護者)

(7) 防災(自身・津波・原子力)教育の推進【2-(5)】

- ・防災の強化(保護者)

(8) 地域の優れた人材や地域ボランティアを活用した教育活動の展開【3-(1)】

- ・地域に開かれた学校をつくっていくためには、学校が地域へ貢献していく必要がある。しかし、敬老会などの地域行事への参加は学校の多忙化やカリキュラムの不一致などの課題を含んでいる。学校はやはり学習の中で地域へ出て、地域へ貢献することが本筋ではないか。総合的な学習の時間では、学習を通して地域の課題に取り組むような実践も行われている。今だからこそ、もう一度総合的な学習にスポットを当てて、指定研究を行ってはどうか。(教員)

(9) 地域の自然・歴史・文化などを生かした体験学習【3-(2)】

- ・子どもが様々な分野のことを体験できる場や機会がもっと増えると良いと思う。(保護者)
- ・今の子どもたちは、自然に触れることが少なくなっているから、もっと自然に触れることのできる企画等が増えると良いと思う。(保護者)

(10) 社会の変化に対応する学校【4-(1)】

ア 研修体制

- ・ICTについては、苦手意識が高い教員(特に小学校)もまた多く、なかなか対応できるか心配な声もある。専門(専科)指導者の派遣等できるとありがたい。(教員)
- ・学校教育の中で、ICTを活用した授業をどの学校でもできる様にしてほしい。平成27年から1人1台のPCの授業の学校と、平成30年になっても環境がととの合わない学校。中学生は3年間で卒業してしまう。情報化社会を生き抜く人を育てていくためには、早くこの時間差を解消したい。(教員)
- ・ICT機器を使った研修を進めていきたい。(教員)

イ ICT機器

- ・ICT教育のさらなる充実(ICTの活用がしやすくなる(手軽に教室で使える)ように、

タブレットや教材提示装置等の数を増やすことを望む) (教員)

- ・ SNS等、ネット社会ではあるが、地域に根ざした温かい教育や活動を推進していきたい。(教員)
- ・ 児童用パソコン室の充実やデジタル教科書の導入など、ICT化への対応。また、市内小学校にある「ICT格差(特にハード面)」の解消。(教員)
- ・ ICTがどの学校でも授業の中で活用でき、子どもたちの学びが確かな学力につながるための機器の充実と整備をしてほしい。(教員)

#### ウ 情報モラル教育

- ・ ITリスク等、知識の面で詰め込まないといけないことが多く子どもの心の負担も多くなるため、心の教育についても丁寧な対応を期待する。(保護者)

#### (11) 生徒指導、就学支援、教育相談システムの充実【4-(3)】

- ・ 市内の不登校の数は大変多い。理由は様々だが、この子どもたちのために、「教室に戻すこと」を主体とした支援ではなく、この子どもたちにとっての居場所を与え、将来の夢を描いて活動できる、みどり教室のような支援体制がさらに充実することを望む。(教員)

#### (12) 老朽校舎・屋内運動場の改築・改良【5-(1)】

- ・ 小学校の統廃合は避けて通れないように思う。統廃合する頃に保護者となる年代へも早いうちに発信したり、「おらが学校」が消えることはわかるが納得できないという地域住民の思いを聞いたりして、できる限り理解を得たい。(教員)
- ・ 小中の規模や財政を考えると早急に取り組む課題。(教員)
- ・ 小中学校の統廃合は、市の財政を考えると待ったなしの状況にある。簡単にできることではないので、先送りせずに、真剣に話し合う場を設けるべきだと思う。(教員)
- ・ 掛川市は小規模校が多く、適正規模の学校が少ない。校舎等の施設の老朽化が進んでいる。教員の数も不足している。財政も決して豊かでない。様々な課題解決のため、小学校の統合は不可欠である。一貫教育を含めた統合を進めてほしい。(教員)
- ・ 子どもたちのよりよい成長を願い、小中一貫教育を進めるにあたり、適正な規模の学校となるよう、老朽化した施設・設備への対応も含めて推進して行ってほしい。(教員)
- ・ 校舎の雨漏り修繕や児童用トイレ改修をはじめとする環境整備。(教員)
- ・ 小学校校舎の老朽化、屋内運動場の改築・改良を計画していただけるとありがたいと思う。その計画を進める際、そこを使用する教職員の意見が反映される様、平面図や立体図、入れようと考えている机がどういったものか等の資料を早めにいただき、検討していけるようにしてほしい。(教員)
- ・ 公立の教育には、スピード感が感じられず、時代遅れである。静岡県の小中学校は競争相手がいないことや、時間が経てば卒業する義務教育制度から、胡座を書いており、危機感が全くない。競争の中を工夫によって磨かれている東京の小・中・高の私学に、特にハード面を学び、今までの固定観念にとらわれない新しい学校を1校でも作って閉塞感を打開した方がよい。(地域団体)

### (13) その他

- ・子どもたちが掛川市から出てもたくましく生活できるような環境づくり（学力の差・環境の差・心の差・運動の差等があまりない）。（保護者）
- ・勉強、運動と競い合いを高めていければいいと思う。（保護者）
- ・学園化を利用した縦学校間の交流を、総合的な学習の時間や保健体育、技術家庭の授業等により組み込まれたい。一日体験学習の際の幼児、児童らとの交流、その間の学校と家庭と地域との交流・意見交換の時間を持つ、もしくは、参観懇談会、各種講演会等への参加につなげたい。（保護者）
- ・今までと同じ環境に新しいものが入ってくるだけでは、学校がそれに対応できず、よりよい教育につながっていかないため、「確かな学力」の向上を目指して、ICT活用、外国語、小中一貫教育を推進していくために、施設設備を整え、人材を確保してほしい。（教員）
- ・農業と触れ合う機会を増やし、「食」について関心を持ってもらいたい。（地域団体）

## 7 社会教育

### (1) 生涯学習活動への参加促進と生涯学習機会の充実【4-(1)】

- ・郷土の歴史や文化遺産を知るための若年層への勉強会や教育。（保護者）

### (2) 大須賀歴史民俗資料館の運営と充実【4-(2)】

- ・掛川市の歴史・芸術・民俗・自然科学などについて系統的に知ることができる博物館が必要だと思う。（教育関係団体）
- ・郷土資料のデジタル化も必要だと思う。早く始めなければ失われてしまうものが多くなってしまうと思う。（教育関係団体）

### (3) その他

- ・掛川の文化・歴史についての世代を超えた教育活動、地元愛の育成、掛川市民の血縁を超えた家族意識を持つ教育推進（保護者）

## 8 図書館

### (1) サービスの充実【1-(3)】

- ・中央図書館の駐車場が、利用者数に対して少ないように感じる。何か対策を取っていただけるとありがたい。（教員）
- ・自主的な学習の場として「図書館」を利用するが、平日の利用時間が17時では、高校生の自主勉強もできないし、普通の会社員も利用ができない。利用時間を20時まで延長すれば利用者人口の拡大につながる。（保護者）

## 9 広報

- ・市民の皆さん、子どもをもつ保護者の方に聞いて知っていただきたいと思う。（保護者）
- ・生涯学習都市であり、市民が積極的に参加しているが、情報発信が不十分だと思う。良い取組が広がるように情報発信を工夫すべき。（保護者）
- ・掛川市が、市として活力のある市になるためには、未来に魅力がある必要がある。

そのための人づくりをしていることが、多くの市民に伝わるとよいと思う。(教員)

## 10 子ども

- ・掛川の恵まれた気候、環境の中で、子どもたちはのびのびと育っていると思う。子の良さを知って掛川をもっと好きになってほしいと思う。(保護者)
- ・掛川の子どもたちは、地域の中で温かく育てられていると感じる。そして、地域行事に参加することで豊かな人間性を育てていただいている。(教員)
- ・地域の「ひと、もの、こと」をこれまで以上に生かして、子どもの学びの充実・発展につなげていきたい。(教員)
- ・不登校、貧困で思うように教育を受けられない生徒が増えていると聞いている。掛川式寺子屋を開いて、学習の遅れを補充したり、学びの意欲の高い生徒向きには、本物(宇宙飛行士やノーベル受賞者など)の話を開ける機会を設けるなど、学校単位では難しい対応のできる場を与えたい。コミュニティスクールやNPOの立ち上げを市で支援することもできる。(教育関係団体)
- ・先生方の時間が足りない、人手が足りなく地域の方々の協力が必要など聞いたので、改善できればと思う。そのため、子どもたちの楽しみな行事等が減るのはかわいそう。(保護者)
- ・旧大須賀・大東地区と掛川市内の小中学校で、もっと子どもたちの交流ができる様なイベントや機会が増えていくと良いと思う。(地域団体)

## 11 教職員

- ・学校の先生は忙しすぎるのでは。子どもたちの隅々まで目が行き届き、余裕が持てる様な環境づくり。(保護者)
- ・学校に求められるものが多いのは大変な部分はあるが、頼りにされていると考えれば光栄なことであると感じている。しかし一方で、負担感を感じている教員がいることも確かである。(教員)
- ・若手の教員がかなり増えて、校内の日々の生活の中で教員指導をしないといけないのも現状である。40代の教員が少なく、指導ができる世代が不足している。(教員)
- ・若手教員の増加に伴い、授業力、生徒指導力、学級経営力等、指導力の向上が喫緊の課題。また、教員数の分布からミドルリーダー層にあたる人数が極端に少ない現状もあり、若手の指導力向上と共にミドルリーダー層の育成も、これから先5~10年間の教育に大きな影響を及ぼすと思う。(教員)

## 12 その他

### (1) 予算

- ・学校教育における教育環境の整備のための費用を削減しないでほしい。(教員)

### (2) 人口問題

- ・教育・人づくりは本気で取り組むと人口流出を防ぐことにつながると考える。  
(教育関係団体)
- ・少子高齢化はみらいのことではなく、市内周辺部の学校にとっては、切実な問題と

なっている。今後の人口移動の推移を分析し、学校のあり方について、子どもを入学させる保護者も交えた議論が必要になってくる。(教員)

- ・結婚を望まない人が増えているとも聞く。人口減少は深刻な問題だが、教育で変えていくことはできないのだろうか。(教育関係団体)

### (3) 市のバスの活用

- ・子どもたちの学習活動がより広がるように、「市バス」をもっと自由に使えるようにしたい。そうすることで、学園化構想における活動内容も深まると考えられる。(教員)
- ・市バスの使用基準が改正されたが、今までより活用しにくくなるのではと懸念される。市バスを有効に活用して、公共施設だけでなく、茶畑や自然環境などいろいろな場所の見学ができるとよい。(教員)

### (4) 人的配置

- ・現在の学校の仕事量は本来学校がやらなければならない仕事量をはるかに超えている。せっかくの良い施策も、十分に効果を得られない。仕事量にあった人員の配置を実施していただきたい。(教員)
- ・市のサポーター制度は大変ありがたい。しかし、指定従事時間が4時間を基本としているため、午前中のみの勤務となる。午後にも支援が必要な児童はいるため、時間数を増やしていただきたい。また、理科や音楽など専科の授業ができる小学校教員の市単独の配置がされるとよいと考える。(教員)
- ・学校には様々な子どもがおり、一人ひとりの子どもに寄り添って指導に当たっていききたいことがたくさんある。そのためにも、教員の数や学校サポーターの数を増やしていただき、多くの目で多くの手で子どもを育てていきたい。(教員)
- ・掛川市の小学校は小規模校が多く、大規模校は職員が40名以上いるのに対し、小規模校は10数名程度。その中で同じ数の分掌を受けるため、小規模校は道徳性と特別支援コーディネーターのように、学校運営の核となる業務も兼任している教員が少なくい。研修のために出張者が1日2人以上いると、教頭、教務主任が担任の代わりを行い、勤務時間には本来の仕事ができない。小規模校こそ、補助サポーターのような人材がほしい。(教員)
- ・さらなる小学校外国語活動の充実のため、ALTの増員で学校支援を強化。(教員)
- ・小中規模校が多い掛川市のため、現在の加配では十分ではない。他市のふるさと先生等の取組を聞くこともあり、ぜひ今後、非常勤の教員を増やすシステムの確立をお願いしたい。(教員)
- ・いじめ等の諸課題への対応や特別支援教育の充実のために、現在もSCやSSW、学校サポーター等が派遣されて、丁寧な対応や取組がされ大きな成果をあげている。その必要度や重要度は高く、学校現場も大変ありがたい。さらに人的増員をお願いしたい。(教員)

### (5) 多忙化解消

- ・教員という立場で「指導者」の養成や学校教育の質の向上という視点から、教師が本務に専念できるような環境作りをお願いしたい。例えば、他市町で行っているように、18時過ぎの電話には音声で対応する、プール清掃は業者に依頼する等のよう

に、授業時数の確保と教職員の負担軽減につながる行政の取組を望む。(教員)

- ・小学校では教育内容が増える中で、通常業務も保護者対応もより高いレベルで行うことが望まれ、教員が疲弊している。学校は信頼をベースに最大限の努力をするが、家庭や地域の全面的バックアップが欠かせない。両親共働きの核家族も増えている。子どものことを余裕を持って育てられるような環境整備を望む。(教員)
  - ・現場はすでにパンク状態である。働き方改革について、市として明確な計画を期待している。(教員)
  - ・個と対応すればするほど「人」の力が必要となる。働き方改革がいわれているならば、行政として舞台的な方策を市独自で打ち出すことはできないか。(教員)
  - ・学習指導要領の全面実施を良い機会と捉え、市の陸上大会をやめていくことも働き方改革の視点からも必要だと思う。(教員)
  - ・教員が子どもと向き合う時間を多くするため、積極的な施策を期待したい。(教員)
  - ・働き方改革がいわれているが、小学校の市陸上競技大会や、「キラリ！ふれ合いコンサート」の開催を検討するべきだと思う。(教員)
  - ・学校での改善ももちろん取り組んでいくが、掛川市として改革できるところは積極的に変えたり、やめたりしていただけるとありがたい。(教員)
- (6) 放課後子ども教室
- ・放課後子ども教室は、ボランティアではなく手当を支給して実現させてはいかかが。(保護者)
- (7) 地域との協働
- ・まちづくり協議会について、市の理想は分かるのだが、地元丸投げ感がぬぐえず、その協議会の取組と学園化構想がどうつながるのか不明瞭なため、将来的なビジョンは、市の10年先まで見据えた構想の中で位置づけしてほしい。(教員)
- (8) 待機児童
- ・待機児童を減らす取り組み。(保護者)
- (9) その他
- ・弁当に関して、最近「キャラ弁」を作る母親が増えているが、作る時間がない親やキャラ弁でない子どもが寂しい思いをするため、キャラ弁を作ることを控えてもらった方がよい。(保護者)
  - ・中高生を対象としたホームステイなどの補助を増やしてほしい。(教員)

## その他意見

### 1 教育振興基本計画

#### (1) 方向性

- ・「掛川らしさ」とは何かを考えることがある。売りになること、県全国へ発信できること、地の利を生かし、この土地ならではのことを見つけていきたいと考える。読書量の多さ、人柄の温かさ、産業（ものづくり）のまち、食育と健康（体力作り）、農業等、可能性がありそうである。（教員）
- ・継続は力なり。引き続き、前期で築いた土台の上に特色ある掛川ならではの教育を積み上げたい。（教員）
- ・これからは、少子高齢化が一層進み、予測のつかない時代と言われているが、未来を担う子どもたちが自己肯定感をもちながら、たくましく生きていけることを願う。（教員）
- ・市民から、教師を目指そうとする学生を育てられるよう、より魅力のある学校教育を推進したい。（教員）
- ・掛川の子どもたちが学生になり、社会人になるときに地元に残る、または戻ってくるように、今から地元企業への社会科見学を充実させたり、代表の方に話が聞ける場を作ったりして、掛川市にある企業のことをもっと知るといのも教育の一つかと思う。（教育関係団体）
- ・市民が自立できる教育環境づくり、生きがいを実感できる掛川市、共に高め合える仲間がいる掛川市（教育関係団体）
- ・素晴らしい基本計画であり、今後、時代のニーズに合わせて柔軟な対応をしていったらいいと思う。（地域団体）

#### (2) 計画性

- ・平成28年に策定された「教育大綱かけがわ」を受けて、教育振興基本計画が策定されるのが原則。大綱の策定と基本計画の策定に3年のずれがあると、時代のニーズを的確に捉えた基本計画になるのか不安を感じる。県の「有徳の人」づくりの大綱は、2018年3月に策定され、それに連動するように県の教育振興基本計画も同年同月に作られている。それを考えると、大綱と基本計画の策定期間が3年ずれているのは疑問である。（教員）
- ・県の大綱及び基本計画が2018年3月に示されているので、それを十分に踏まえ

た市の基本計画としたい。また、県の様に総花的にならないよう市としての重点を絞りたい。(教員)

- ・国や県、市の取組を受けて本市教育のよさや強みが「見える化」されていることが良いと思った。教育課程編成の際、「人づくり構想かけがわ」や「さらなる学校改善に向けて」を全職員に配布した。じっくり読んでみると、学校や地域の宝を生かしつつ、どんなな学校づくりを目指せばよいのかが見えてきた。(教員)
- ・世界は、私たち昭和生まれの人間には考えられないほどの速さで動いており、5年前、いや3年前の教育計画も当てはまらなくなっている。今の基本計画のように手直しをしてほしい。(教育関係者団体)
- ・「第5章 主要施策指標と現状値・目標値」について、県教育振興基本計画「有徳の人づくりアクションプラン」の中で示されている主な成果指標や目標値とリンクさせる必要がある。そうすることで、県全体との経年比較(実態の把握)ができるようになるとともに、県の教育行政との連携がより一層高められるようになっていくと思う。(教員)
- ・限られた財政の中で、あれもこれもと手を広げすぎると全てが中途半端になってしまうように思うので、市として「これ！」という「重点」を決めて進めてほしい。(教員)
- ・常に現場の声を聞きながら修正してほしい。(教員)
- ・教育振興基本計画については、掛川市子どもたちのことを考えた内容のもので、とても良いものと思っている。今後も継続維持をしていただければと思う。(保護者)

### (3) 表示

- ・小さな字で細かすぎて一部ずつ配布しても見ない方がほとんどじゃないかな、と思った。見る方にも、もっと見やすい、興味を持ってもらえるような感じにした方が、教育振興にみんなが興味を持ってくれるのでは。(保護者)
- ・基本計画の資料の作り方が、理解してもらいたいという意図が感じられない。イラストやグラフ等を差し込み、視覚的に理解しやすくなるように改善してほしい。(保護者)
- ・誰にでもわかるように書き表してくださるとありがたい。(教員)
- ・本冊子全般を通して、子どもから成人まであたたかく愛ある教育計画が伝わり、大変読みやすいものにしていただきありがたく思う。(保護者)

### (4) その他

- ・一つ一つをとっても素晴らしい教育振興基本計画を、市民全てに行き渡らせていただきたいと思う。「すばらしい掛川市」のために。(保護者)

## 2 中学校区学園化構想

### (1) 地域とのつながり

- ・基本計画にあるよう、地域でのコーディネーターによる活動は非常にいいと思う。お互い無理のない中で、地域の方々との交流をもっと増やしていくことは非常にいいことであると思う。(保護者)
- ・地域の力を借りて、学校の施設を整えたり、放課後時間を利用し、OBを有効に活用



し学力の底上げを図ったり、教師の負担を減らすようなサポートを行っているが、学校が、方向性はしっかり学校側が示す必要を感じる。(教員)

- ・まちづくり協議会、学園化構想、子ども育成協議会と組織は整えられてきたので、それをいかに有効に機能させ、地域の子どもたちの育成につなげていくか、各中学校区の取り組みを交流し合い、よりよい方策や役割分担等を探っていきたい。

(教員)

- ・まちづくり協議会とも連携した学校運営のあり方を考えていく必要がある。(教員)

## (2) その他

- ・同地区の子どもの教育に関することなのに、小中一貫教育と認定こども園化の話が別々に進んでいるのはおかしい。あまり同じ土地に密集するのは交通事情や騒音、景観が変わってしまうのは色々問題だと思う。特に小中一貫教育は入れ物ではなく中身がとても大切だと思うので、様々な方面から考え、じっくり行うことが大切だと思った。(教員)

## 2 かけがわ教育の日

- ・かけがわ教育の日について、”教育の日”とするのであれば、もっと市民が実際に教育について何かをするようにしたらどうかと思う。例えば、その日は子どもが主となってお昼ご飯を作る日にするなど。(保護者)
- ・かけがわ教育の日は、半日で行うには内容が盛りだくさんで、全て消化できずもったいない。それぞれとても価値ある内容だと思うが、もう少し内容を年度ごと精選したらどうか。(教員)

## 3 幼児教育

- ・アプローチカリキュラムを今後作成していく予定であるが、小学校のスタートカリキュラムと併せ幼小の滑らかな接続に活用できるようになるとよいと思う。(教員)
- ・幼児教育を乳幼児教育として、乳児から絵本の読み聞かせ等、親の関わりがとても大切になってくるので、入れていただけると嬉しい。(教員)
- ・認定こども園化に伴い、子ども、保護者、職員に対し、十分な説明とスムーズな移行ができるための人員確保、交流活動など引き続き行ってほしい。また、小規模園から大規模園になることで、負担(心、環境の変化など)を考慮し進めてほしい。

(教員)

- ・幼児教育について、幼児期から児童期への円滑な移行というのは、生活面や精神面等の支援の他、学力面での指導も入っているのか。(保護者)
- ・城東地区に認定こども園化の推進を行っていると思うが、全国的にもない特化型の園を作ってほしい。(保護者)
- ・幼児教育はこども園化、民営化に向けて進んでいる。公立幼稚園で培ってきた幼児教育のよさ(保育の質、研修の充実、地域とのかかわりなど)を引き継いでいってほしい。保育の質の向上に取り組んでいける体制をしっかりと作ってほしい。(教員)
- ・預かり保育を利用するにあたって、3日前に申請するなどきまり事があり、急に利用したいときは困る。(保護者)

## 4 人的配置

- ・学校サポーター派遣事業をもっと充実させたらどうか。現在の数は少なすぎるのではないか、との意見が現場から聞こえてくる。サポーターや補助教諭の拡充は、現在の先生の負担軽減につながるであろうし、子どもたちへの細やかな配慮につながるのではないか。(保護者)
- ・小学校外国語活動(外国語を含む)への人材の確保をもっと充実させてほしい。(教員)
- ・学校や地域に任せきりになっている面もあるので、もっと身近な家庭がバックアップできるよう努めていきたい。(保護者)
- ・外国語教育やプログラミング教育等に対応するALT配置時間増といった人的支援や教材等の環境整備をお願いしたい。(教員)
- ・学校現場の現状として、基本計画に書かれている事業や政策を十分に活用しきれていない現状がある。特別支援コーディネーターの設置がされていても、学級担任と兼ねている職員が多く、学校の規模が大きいと全校の把握が難しい。司書教諭が発令された教諭がいても、担当授業数を軽減することが難しく、児童への図書指導をしたくても、思うようにいかない現状がある。これまでも、少人数加配などの支援をいただいているが、人的余裕がもう少しあれば、有効に活用できることがたくさんあると思う。(教員)
- ・「特別支援教育の充実」として、特別支援巡回相談や学校サポーターの派遣事業は今後も継続をお願いしたい。また、学校司書が全校に配置されたことは、喜ばしいことだと思う。読書活動の推進は、豊かな心を育むことに欠かせないものであり、教職員が学校図書館を活用した授業を行う上で、学校司書はたいへん頼りになる存在である。こちらも継続をお願いしたい。(教員)

## 5 教育条件整備

- ・老朽化した校舎、ICT機器の数など各学校の教育条件に差が見られないよう、計画的に安全で充実した施設や設備の整備をしていただきたい。(教員)

## 6 安全・安心

- ・命を守る防災教育の推進をより図っていけるとよい。各校で総合的な学習などで取り入れているが、市の防災リーダー教室などに小・中学生が積極的に参加し、知識やスキルを身に付け、広めることができるとよい。(教員)

## 7 学校司書

- ・2016年11月に文部科学省から通知された「学校図書館ガイドライン」には、「(前略)児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする『情報センター』としての機能を有している」と書かれている。ガイドラインに書かれているように、学校図書館を捉えると、学校司書の常勤が必要になる。(教育関係団体)

## 8 図書館

- ・今後、文化や趣味を進めていきたい高齢者が増加していくと思われるので、図書館を中心とした生涯学習についても対策を考えていただきたい。自分も含め非農家シニア世代が増えているので、楽しみや生活仕様が今までとは異なってくると思われる。(教育関係団体)

- ・大須賀図書館に置いてある本が古すぎる。古い本も良いものがたくさんあるが、情報を得たいものなどが古い。他の図書館との「差」がひどいと思う。(地域団体)

## 9 人材活用

- ・高齢者が将来学び続け、社会・地域とつながって生きることができる掛川市になると良い。現在は、あまり具体が無いように思う。(教員)

## 10 家庭教育

- ・子育てに迷っている、子育てが分からない、また自分の考えだけの子育てになってしまっている保護者が多い現状があるので、家庭、子育て支援に重点を置き、家庭の教育力の向上につなげて行ってほしいと考える。(教員)
- ・家庭教育の重要性を再認識する上でも「家庭教育」という分野をもうけ、「家庭教育」「幼児教育」「学校教育」「社会教育」「図書館」の5分類にはいかがか。(保護者)
- ・子どもが健やかな成長の源は家庭であるから。今後も家庭や地域の教育力向上を押し進めてほしい。(教員)

## 11 預かり保育

- ・幼稚園には預かり保育があり、その日1日とか預けることはできるが、小学校には一時的に預けられる場所がないから、頼れる人や預かってもらうところがない人が困る。(保護者)

## 12 情報化推進

- ・ICTを活用した授業づくりの研修を拡大し、ICT機器の有効活用を図りたい。(教員)

## 13 コミュニティ・スクール

- ・今求められている「コミュニティスクール」の取り組みとしては、地域の学校への働きかけがやや弱いようにも感じる。他県や他市の取り組みを参考にしつつ、本市のコミュニティスクールの取り組み方を市が提示、推進していただければ、「協働」が一層力強いものになると思う。(教員)

## 14 学区再編

- ・学校規模のアンバランス、学園化を推進しながらもできるだけ児童生徒数が効率よくなるよう、学区も再考するなどして、均等化を図っていただきたい。(教員)
- ・少人数校の今後について、どうなっていくのがいいのか地元との話し合いを深めていていただきたい。(教育関係団体)

## 15 体験活動

- ・地域との連携や、歴史・文化などの体験学習等があるが、他の地域、他県へのボランティア活動を教育内に入れてみてはどうか。災害ボランティアやイベントボランティアなど、小中学生の内の体験は、成人になってからの体験よりも人生にいかされるところと思う。(保護者)

## 16 高校

- ・横須賀高校の統廃合が推進される中で、大須賀地区の教育だけでなく、郷土芸の等の歴史文化の一翼を担っていることから、今後も存続をお願いしたい。(保護者)

## 17 小中一貫教育

- ・小中一貫校を目指した学校のあり方の研究のさらなる推進をお願いしたい。(教員)

## 18 生きがいづくり

- ・少子高齢化に伴い、学校の規模が小さくなり、運動部の数が減っている。または、一部の部活を除いて部員数が減り、競争が低下している。一方、元気なお年寄りが活躍の場がなく、ひたすら自分の健康維持のため汗を流している。学校単位ではなく、小学校のスポーツクラブのように、専門の指導者による学校区を越えた指導は可能なのではないか。子どもからお年寄りまでみんなで楽しむスポーツのまちづくりもいいのではないかと思う。(教育関係団)
- ・少子高齢化が進む中、元気なお年寄りの力を生かし、放課後の子どもたちの様子を見守ってほしい。放課後教室や学童保育の充実に生かしていけたら良いと思う。また、それでお年寄りも元気になってほしい。(教員)

## 19 リーフレット

- ・人づくり構想かけがわがリーフレットと詳細版に別れているのは良いが、リーフレットへの記載内容が細かすぎたり、オプションだらけで分かりづらい。幼児教育・学校教育・社会教育の柱に対して、文字を羅列して「行政の仕事をしてます」ではなく、市民は実感を求めている。「確かな学力」や「豊かな感性」は昔から言われていたことであって、当たり前であり、子育て世代が求めている要望とは大きな乖離を感じる。例えば、「児童や学童の受け入れ体制に余裕がある市であってほしい」と思っている。それが実現すれば市としても、①若い人が住みたい街でイメージアップ②人口減少の歯止め③税収の確保など、相乗効果が見込め大きなメリットがあるはずである。若い人が「掛川市に住んでいて良かった」または、「掛川市に家を建てたい！」と思えるようなリーフレットを期待したい。(地域団体)

## 20 部活動指導

- ・「掛川市中学校部活動ガイドライン」の、活動日、時間等の設定については、プレーヤーズファーストなのか教員ファーストなのか疑問。これだけ減らされた中で、他地区やクラブチーム所属のライバルと高校で同じように戦っていけるのか不安。(地域団体)

# 掛川市の教育についての御意見をお寄せください。

## I 御回答者のお名前や御住所等を教えてください。

お名前			性別	男・女
御住所		園・学校名		
電話番号		年代	10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代	

※上記情報は、統計処理や御意見の内容を確認する際のみを使用します。

## II 同封しました教育振興基本計画を御参照の上、掛川市の教育に対する各項目の御意見を御記入ください。

1 これまでの掛川市の教育の良い点や改善すべき点について、御意見を御記入ください。	
良い点	改善すべき点
2 これからの掛川市の教育に望むことについて、御意見を御記入ください。	
3 その他、教育振興基本計画について御意見がございましたら御記入ください	

提出期限 平成30年5月30日（水） 提出先 各園・学校